

部活動地域移行 アンケート調査 結果報告書



小諸市教育委員会

目 次

I 調査の概要

- | | | |
|--------|---|----|
| 1 目 的 | … | P1 |
| 2 方 法 | … | P1 |
| 3 調査対象 | … | P1 |

II 調査の結果と考察

- | | | |
|-----------------|---|---------|
| 1 中学校 1・2年生 | … | P2－P14 |
| 2 小学校 5・6年生 | … | P15－P21 |
| 3 中学校 1・2 年生保護者 | … | P22－P29 |
| 4 中学校教師 | … | P30－P37 |

III 全体のまとめ

- ・ 部活動アンケートから見えてきたこと … P38－P39

I 調査概要

1 目的

学校の部活動を指導・運営する教員の超過勤務是正などの働き方改革や少子化による生徒数減少を主な理由として、部活動を学校単位の活動から地域単位の活動に移す「部活動の地域移行」が国及び県の主導により進められています。「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」(スポーツ庁・文化庁 2022)では、令和7年度(長野県では令和8年度)までを「改革推進期間」と位置づけ、休日の部活動を可能な限り地域クラブ活動へ移行することを目指しています。

小諸市では、部活動の地域移行に向けた課題把握や対応の方向性を検討するにあたり、その基礎データとなるアンケート調査を市内の小学校5・6年生及び中学校1・2年生の児童生徒、中学1・2年生の保護者、中学校の教師を対象として実施し、課題の把握やニーズ、意向をとらえるものとします。

2 方法

○調査期間

アンケート調査を令和5年12月5日～令和6年2月9日の期間で実施

○調査方法

調査対象 ①小学校5・6年生 ②中学校1・2年生 ③中学校1・2年生の保護者
④中学校教師

回答方法 Google フォームによるオンライン回答

3 調査対象

小諸市内の中学校及び小学校の対象者

対象者	学校数	対象者数
小学校5・6年生	6	663
中学校1・2年生	2	693
中学校1・2年生の保護者	2	620
中学校教師	2	62

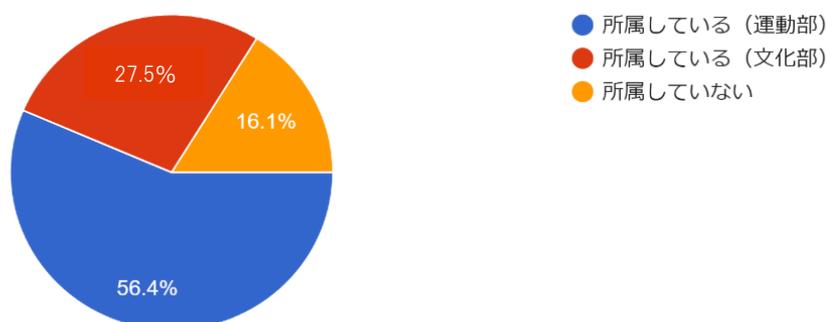
Ⅱ 調査の結果と考察

部活動アンケート調査の結果と考察（中学校 1・2 年生）

対象者 693 名中、576 名から回答がありました。回答率は全体で 83.1%でした。

設問 1：学校の部活動への所属状況について

問 1：あなたは学校の部活動に所属していますか



あなたは学校の部活動に所属していますかについての回答では、運動部に所属している 56.4% 文化部に所属している 27.5%で、部活動に所属していないは 16.1%でした。また、回答者のうち学校の運動部か文化部の部活動いずれかに所属している割合は、83.9%でした。

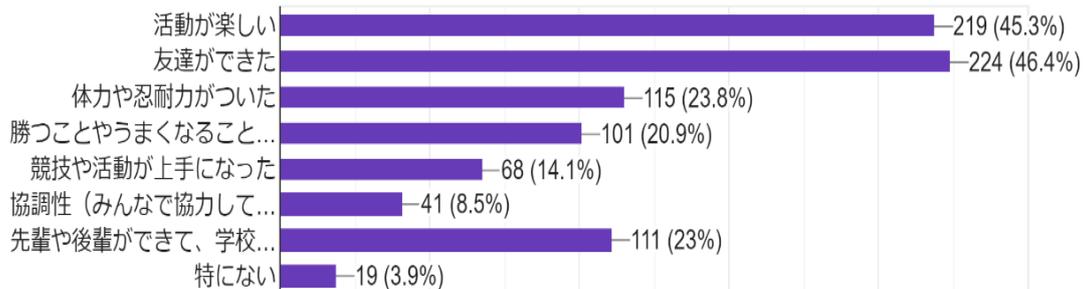
→ 8割強の生徒が何らかの部活動に参加しており、その2/3は運動部で活動している。学校生活の中で多くの生徒にとって、部活動は大切な意味をもっているといえるだろう。

設問2：部活動に所属している感じることにについて

問2：部活動に所属しているよかったと思うことは何ですか（2つまで選択可）

【選択肢】

- 活動が楽しい
- 友達ができた
- 体力や忍耐力がついた
- 勝つことやうまくなることの喜びを知った
- 競技や活動が上手になった
- 協調性（みんなで協力して活動する）や規律性（規則やルールを守る）がついた
- 先輩や後輩ができて、学校生活での付き合いが広がった
- 特にない



部活動に所属している良かったと思うことについての回答では、友達ができた 46.4%、活動が楽しい 45.3%、体力や忍耐力がついた 23.8%、先輩や後輩ができて学校での付き合いが広がった 23%、勝つことやうまくなることの喜びを知った 20.9%、競技や活動が上手になった 14.1%、協調性（みんなで協力して活動する）や規律性（規則やルールを守る）がついた 8.5%でした。また、特にないは 3.9%でした。自由記述では、全力を出すことの楽しさや大切さがわかった。責任感が持てた。友達とケンカしたとき部活に行き発散が出来た。などの意見がありました。

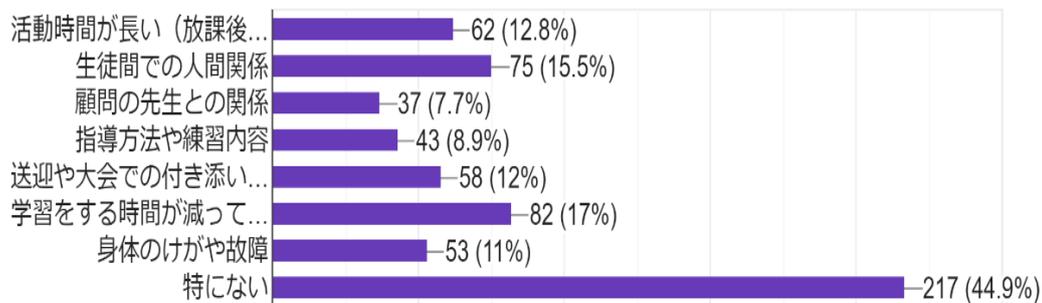
→ 部活動に参加する意義は、当該活動のおもしろさを味わうほか、異学年を含めた仲間との交流の楽しさ・喜びに見出している生徒が多いようだ。

また、自らの成長を実感する場と受け止めている生徒も少なくない。

問3：部活動に所属していて困ったことや不安なことがあれば教えてください（2つまで選択可）

【選択肢】

- 活動時間が長い（放課後の練習や休日の練習など）
- 生徒間での人間関係
- 顧問の先生との関係
- 指導方法や練習内容
- 送迎や大会での付き添いなどの親の負担
- 学習をする時間が減ってしまう
- 身体のけがや故障
- 特にない



部活動に所属していて困ったことや不安に思うことについての回答では、学習をする時間が減ってしまう17%、生徒間での人間関係15.5%、活動時間が長い（放課後の練習や休日の練習など）12.8%、送迎や大会での付き添いなどの親の負担12%、身体のけがや故障11%、指導方法や練習内容8.9%、顧問の先生との関係7.7%でした。また、特にないは44.9%でした。自由記述では、夜に帰ることが怖い、練習量が少ない、活動時間が短い、もっと練習したい、話す人がいない、楽器が壊れるかもしれないと心配になる、ポジションに納得していない、技術面の差が大きい、などの意見がありました。

→ 部活動を続ける上での困難や不満は「特にない」とする生徒が多く、概ね満足のいく活動ができている様子がうかがえる。

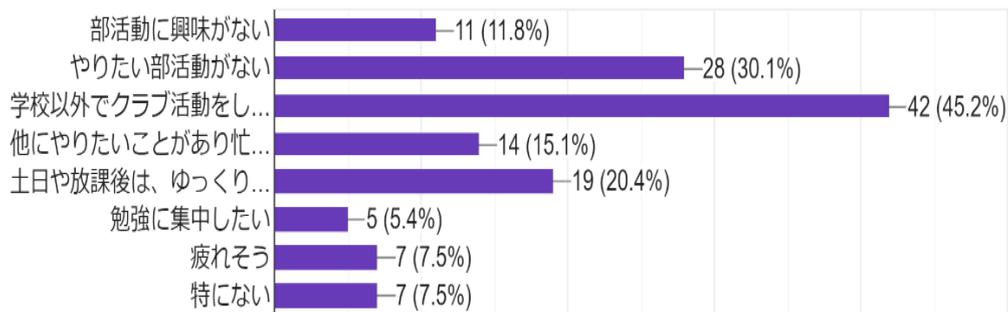
一方で、仲間や顧問との人間関係の上で心理的負担を抱えていたり、学業との関係から困難を感じたりしている生徒も一定数みられる。丁寧な聞き取りを行うなどしながら、生徒の立場に寄り添った運営のあり方を心がけていく必要があるだろう。

設問3：学校の部活動をしらない理由について→（部活動に所属していないと回答した回答者）

問4：学校の部活動に所属しない理由は何ですか（2つまで選択可）

【選択肢】

- 部活動に興味がない
- やりたい部活動がない
- 学校以外でクラブ活動をしている（スポ少やクラブチーム・ピアノ教室など習い事）
- 他にやりたいことがあり忙しい
- 土日や放課後は、ゆっくりとしたい
- 勉強に集中したい
- 疲れそう
- 特にない



学校の部活動をしらない理由についての回答では、学校以外でクラブ活動をしている 45.2%、やりたい部活動がない 30.1%、土日や放課後は、ゆっくりとしたい 20.4%、他にやりたいことがあり忙しい 15.1%、部活動に興味がない 11.8%、疲れそう 7.5%、勉強に集中したい 5.4%でした。

また、特にないは 7.5%でした。自由記述では、習い事と両立できそうにない、下校時間が遅くなる、ヘルニアだから、などの意見がありました。

→ 生徒それぞれの価値観や願いをもとに、トータルで自らの生活をマネジメントしている様子がかがえる。

「やりたい部活動がない」「部活動に興味がない」などの意見に対しては、生徒がやりたい内容を把握し環境を整えていくことで、新たな学びの場が生まれていくことに努める必要があるだろう。

設問4：学校以外で、クラブチーム・スポーツ少年団や教室などへの所属状況や目的について

問5：学校以外で、クラブチーム・スポーツ少年団や教室などに所属して活動をしていますか（学習塾は除く）



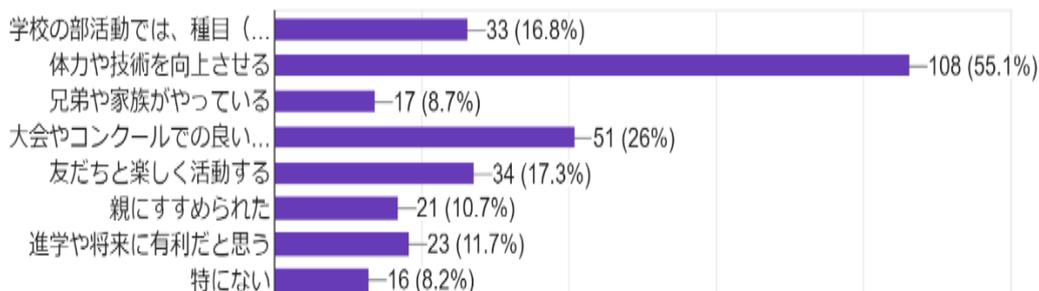
学校以外で、クラブチーム・スポーツ少年団や教室などに所属して活動をしていますかについての回答では、所属していない 66%、スポーツ活動をしている 21.5%、文化芸術活動をしている 10.1%、両方している 2.4%でした。

→ 7 割弱の生徒は、校内の部活動への参加のみという状況である。子どもたちがスポーツ・文化芸術等に触れ、その良さを味わう機会としても、部活動の時間は貴重であると考えられる。

問6：学校以外で活動を行っている目的は何ですか（2つまで選択可）

【選択肢】

学校の部活動では、種目（活動）がない
 体力や技術を向上させる
 兄弟や家族がやっている
 大会やコンクールでの良い成績を取りたい
 友達と楽しく活動する
 親にすすめられた
 進学や将来に有利だと思う
 特にない



学校以外で活動を行っている目的は何ですかについての回答では、体力や技術を向上させる 55.1%、大会やコンクールでの良い成績を取りたい 26%、友達と楽しく活動する 17.3%、学校の部活動では、種目（活動）がない 16.8%、進学や将来に有利だと思う 11.7%、兄弟や家族がやっている 8.7%でした。また、特にないは 8.2%でした。自由記述では、小さいころから続けている。学校の練習時間だけでは少ない。好きだから。趣味でできるように頑張りたい。楽しいしチャレンジしたい。自分がやりたいから。などの意見がありました。

→ 実力が試される場におけるパフォーマンス発揮のための技能習得・向上が、主な理由と考えられる。生徒の要望に応えることのできる確かな指導力が求められている。

設問5：地域にやりたい活動があればやってみたいか、どんな種目をやってみたいかについて

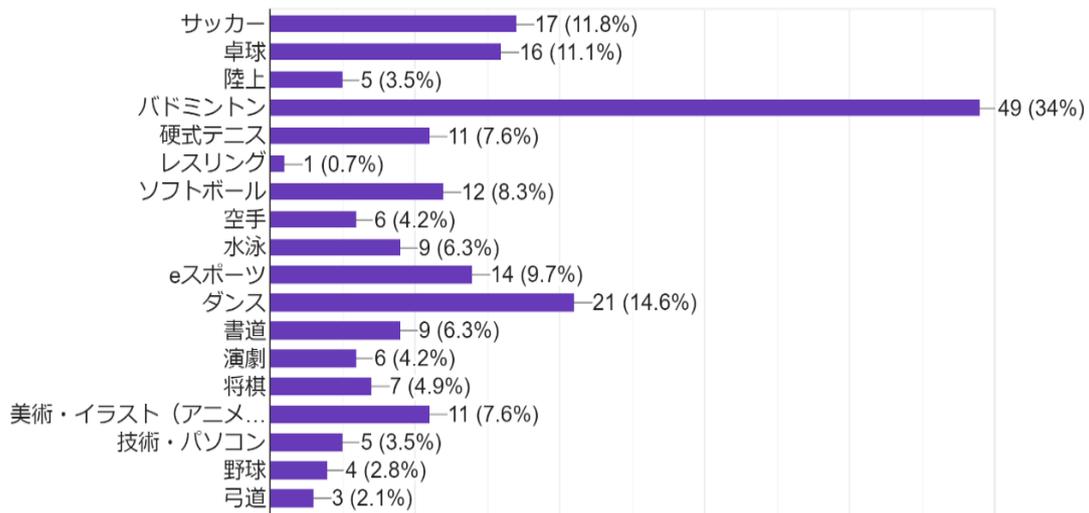
問7：中学校にやりたい部活動がない場合、地域にやりたい活動（クラブや教室）があればやってみたいですか



中学校にやりたい部活動がない場合、地域にやりたい活動（クラブや教室）があればやってみたいですかについての回答では、現在地域のクラブなどに参加している 12.2%、やってみたい 24.9% やらない 28.5%、分からない 34.4% でした。

→ 地域クラブでの活動の内容・方法等の実態がわからない現状では、態度を決めかねる生徒が多いのも当然だろう。明確に「やらない」と答える生徒も含め、地域移行後のクラブ活動の具体像を丁寧に示していくことができれば、興味・関心が増えていくことも考えられる。

問8：あなたがやりたいと思う活動内容（種目）を選択してください（2つまで選択可）

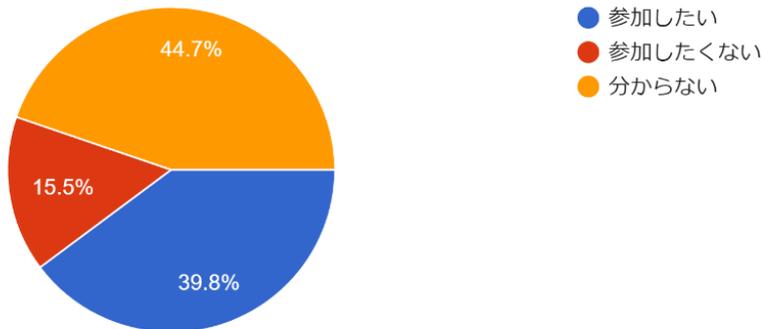


やりたいと思う活動内容（種目）についての回答では、多い順にバドミントン34%、ダンス14.6%、サッカー11.8%、卓球11.1%、eスポーツ9.7%、ソフトボール8.3%、硬式テニス7.6%、美術・イラスト（アニメ）・絵画7.6%、書道6.3%、水泳6.3%、将棋4.9%、演劇4.2%、空手4.2%、陸上3.5%、技術・パソコン3.5%、野球2.8%、弓道2.1%でした。また自由記述では、スノーボード、硬式野球、ドッジボール、スケート、アーチェリーなどの種目の記述がありました。

→ “バドミントン”の希望が多いのは、楽しみ方の幅が広いこと（競技にこだわらず楽しめる等）によるものだろうか。ダンス、eスポーツ、アニメなど、最近の若者に人気の種目については、指導者の確保も優先課題となってくる。

設問 6：「休日の部活動」が地域で行われるようになった場合の参加などについて

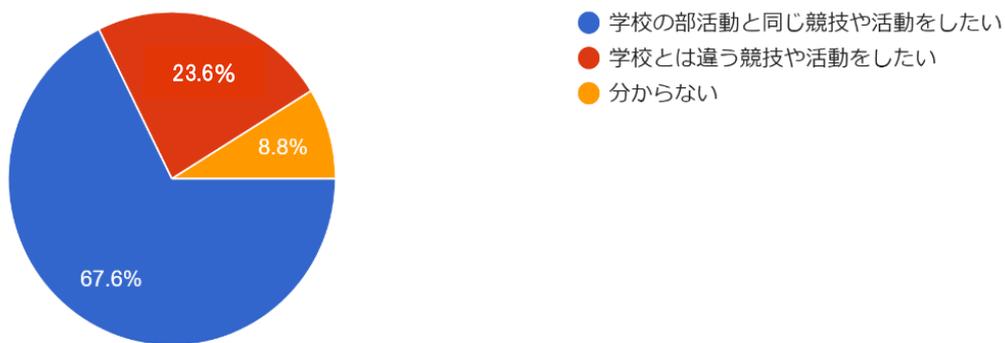
問 9：「休日の部活動」が地域で行われるようになった場合、あなたは参加したいですか



「休日の部活動」が地域で行われるようになった場合、あなたは参加したいですかについての回答では、参加したい39.8%、参加したくない15.5%、分からない44.7%でした。

→ 「分からない」の回答は地域クラブの活動実態が未だ不明で、具体的なイメージがもてないことによるものだろう。「参加したい」という声に応えられるよう、環境整備を進めていく必要がある。

問 10：「休日の部活動」を行うとしたら、学校での部活動と同じ競技や活動をしたいですか



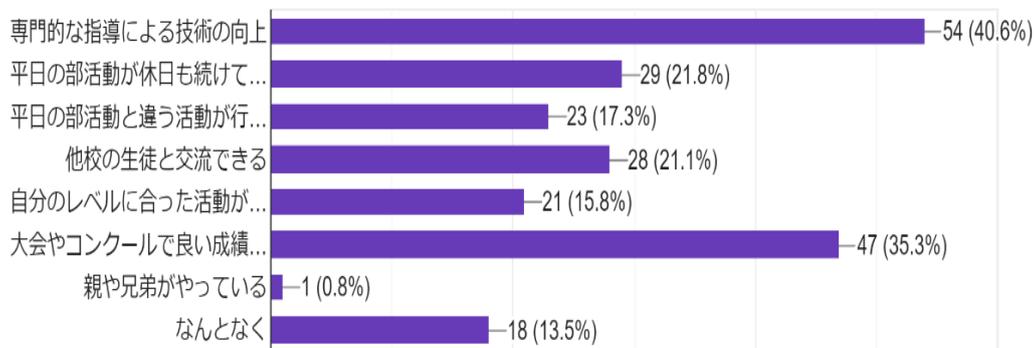
「休日の部活動」を行うとしたら、学校での部活動と同じ競技や活動をしたいですかについての回答では、学校の部活動と同じ競技や活動がしたい67.6%、学校とは違う競技や活動がしたい23.6%、分からない8.8%でした。

→ 7割程度は「学校の部活動と同じ競技・活動」を希望する一方で、「学校とは違う競技・活動をしたい」とする生徒もいることから、可能な限り多くの選択肢が用意されていくことが望ましいといえる。

問 1 1 :参加したい理由は何ですか (2つまで選択可)

【選択肢】

- 専門的な指導による技術の向上
- 平日の部活動が休日も続けて行える
- 平日の部活動と違う活動が行える
- 他校の生徒と交流できる
- 自分のレベルに合った活動ができる
- 大会やコンクールで良い成績を目指したい
- 親や兄弟がやっている
- なんとなく



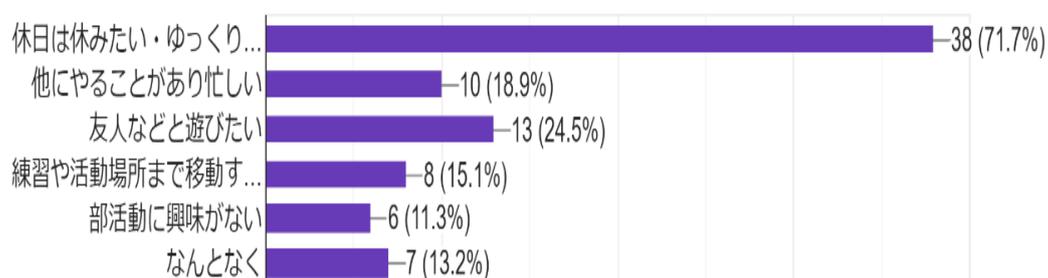
参加したい理由は何ですかについての回答では、専門的な指導による技術の向上 40.6%、大会やコンクールで良い成績を目指したい 35.3%、平日の部活動が休日も続けて行える 21.8%、他校の生徒と交流できる 21.1%、平日の部活動と違う活動が行える 17.3%、自分のレベルに合った活動ができる 15.8%、なんとなく 13.5%、親や兄弟がやっている 0.8%でした。また、自由記述では色々なスポーツに挑戦してみたい、違うことに挑戦したいなどの意見がありました。

→ “専門的な指導”により“大会やコンクールで良い成績を目指す”ことが多くの生徒にとっての参加理由である。技能向上のための確かな指導力が求められることから、指導者には各種研修会等への参加を通して、自己研鑽に努めることが重要である。

問 1 2 : 参加したくない理由は何ですか (2 つまで選択可)

【選択肢】

休日は休みたい・ゆっくりしたい
他にやることがあり忙しい
友人などと遊びたい
練習や活動場所まで移動することが大変
部活動に興味がない
なんとなく



参加したくない理由は何ですかについての回答では、休日は休みたい・ゆっくりしたい 71.7%、友人などと遊びたい 24.5%、他にやることがあり忙しい 18.9%、練習や活動場所まで移動することが大変 15.1%、なんとなく 13.2%、部活動に興味がない 11.3%でした。また、自由記述では、休みの日は家から出たくない。家族との時間を楽しみたい。勉強したい。同じ環境で同じ仲間と居たい。面倒くさい。などの意見がありました。

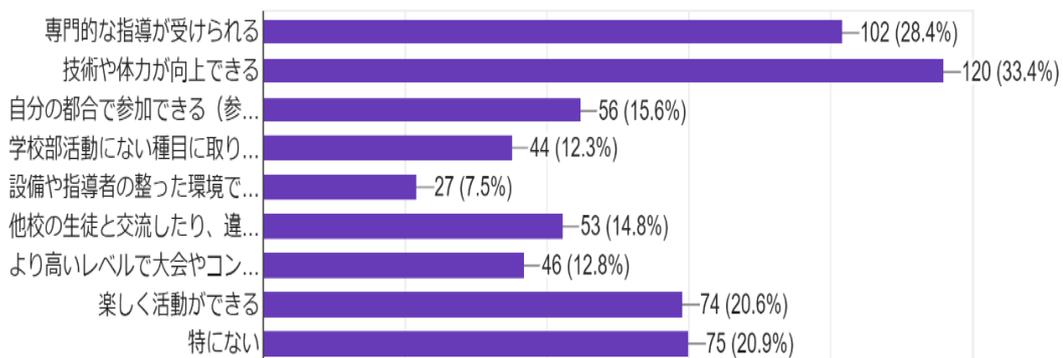
→ 休日のクラブ活動参加については様々な価値観の広がりも影響してか、ネガティブなイメージを持つ生徒が少なくない。魅力的なスポーツ・文化芸術活動が用意されていくことで、学校外での学びの魅力が広がっていくことも期待される。

設問7：「休日の部活動」を地域で行うことについて、期待することや心配や不安に思うこと

問13：「休日の部活動」を地域で行うことについて期待することはありますか（2つまで選択可）

【選択肢】

- 専門的な指導が受けられる
- 技術や体力が向上できる
- 自分の都合で参加できる（参加日数や時間）
- 学校部活動にない種目に取り組める
- 設備や指導者の整った環境で練習ができる
- 他校の生徒と交流したり、違う年代の人と交流や練習ができる
- より高いレベルで大会やコンクールに参加できる
- 楽しく活動ができる
- 特にない



「休日の部活動」を地域で行うことについて期待することの回答では、技術や体力が向上できる 33.4%、専門的な指導が受けられる 28.4%、楽しく活動ができる 20.6%、自分の都合で参加できる（参加日数や時間）15.6%、他校の生徒と交流したり、違う年代の人と交流や練習ができる 14.8%、より高いレベルで大会やコンクールに参加できる 12.8%、学校部活動にない種目に取り組める 12.3%、設備や指導者の整った環境で練習ができる 7.5%でした。期待することについて、特にないは 20.9% でした。また、自由記述では、学校と部活が切り離せるかわからない、などの意見がありました。

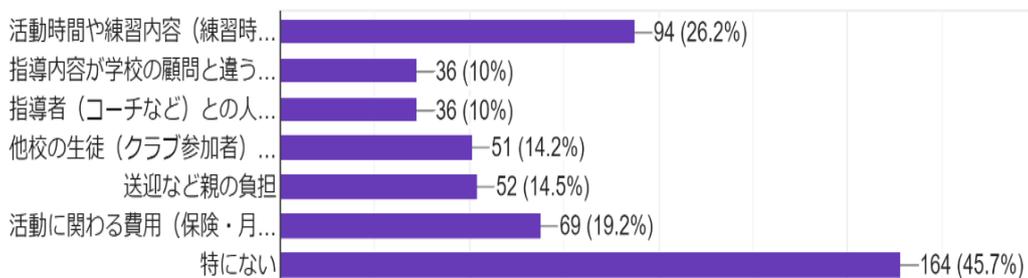
→ “技術の向上”“専門的な指導”に期待する声がかここでも6割と高い割合であり、競技・コンクールへの参加を楽しみにする様子がかうか見える。一方で、自分の都合に合わせて参加し、同好の仲間と活動そのものを楽しみたいという考え方もみられる。

指導者養成から内容の検討など環境整備のハードルは高いが、今後増えていくと考えられるこうした新たなニーズへの対応も、検討されていかなければならない。

問 1 4：「休日の部活動」を地域が行うことについて、心配や不安に思うことはありますか（2つまで選択可）

【選択肢】

- 活動時間や練習内容（練習時間の長さや自分のレベルに合う練習内容があるかなど）
- 指導内容が学校の顧問と違う場合
- 指導者（コーチなど）との人間関係
- 他校の生徒（クラブ参加者）との人間関係
- 送迎など親の負担
- 活動に関わる費用（保険・月謝・ユニフォームなど）
- 特にない



「休日の部活動」を地域が行うことについて、心配や不安に思うことの回答では、活動時間や練習内容（練習時間の長さや自分のレベルに合う練習内容があるかなど）26.2%、活動に関わる費用（保険・月謝・ユニフォームなど）19.2%、送迎など親の負担14.5%、他校の生徒（クラブ参加者）との人間関係14.2%、指導内容が学校の顧問と違う場合10%、指導者（コーチなど）との人間関係10%でした。特にないは45.7%でした。また、自由記述では、通える範囲にチームがあるか心配、部活動の楽しさがわからなくなる、友達関係、などの意見がありました。

→ 活動の内容や方法を中心に、環境の変化(学校による運営を離れること)に伴う心配や不安が多く上がった。また、費用面や送迎など保護者の負担を心配する声も少なくない。関係機関・団体による綿密な運営計画の立案と審議、学校・地域・家庭の連携のもとに、地域における新たな文化活動の創造に向けた試行錯誤が求められる。

部活動アンケート調査の結果と考察（小学校5・6年生）

対象者 663 名中、延べ 657 名から回答がありました。回答率は全体で 99.1%でした。

設問 1：学校以外での活動状況や目的について

問 1：あなたは、学校以外でスポーツ活動（スポーツ少年団やスポーツクラブ・水泳・ダンスなど）や文化芸術活動（ピアノ教室や書道教室など）に行っていますか



学校以外でスポーツ活動（スポーツ少年団やスポーツクラブ・水泳・ダンスなど）や文化芸術活動（ピアノ教室や書道教室など）に行っていますかについての回答では、スポーツ活動をしている 32.1%、文化芸術活動をしている 18.2%、両方している 9.7%でした。学校以外でスポーツ活動や文化芸術活動をしていないは 40%でした。

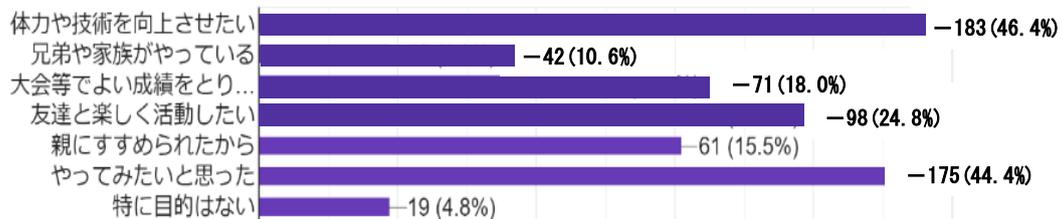
→ 学校外においても何らかのスポーツや文化芸術活動に取り組む児童が6割に上ることから、日常生活の中でもこうした活動に関わることを楽しむ生活スタイルが定着されつつあるようだ。

一方で、様々な理由から4割の子どもたちはこうした体験ができずにいる。環境を整えつつ、“体験格差”が広がらないような施策について検討されていかなければならない。

問2：あなたが活動する目的について、あてはまるものを選んでください（2つまで選べます）

【選択肢】

- 体力や技術を向上させたい
- 兄弟や家族がやっている
- 大会等でよい成績をとりたい
- 友達と楽しく活動したい
- 親にすすめられたから
- やってみたいと思った
- 特に目的はない

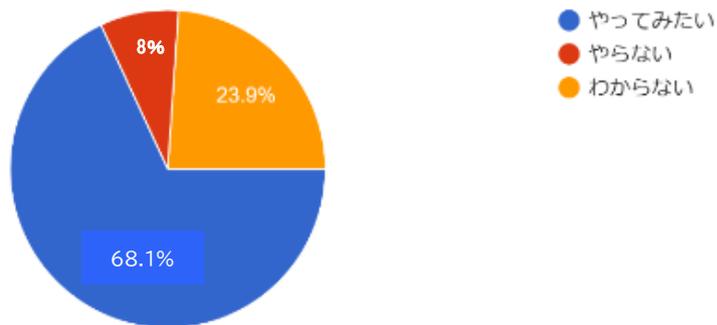


活動する目的についての回答では、体力や技術を向上させたい 46.4%、やってみたいと思った 44.4%、友達と楽しく活動したい 24.8%、大会等でよい成績をとりたい 18.0%、親にすすめられたから 15.5%、兄弟や家族がやっている 10.6%でした。また、特に目的はないは 4.8%でした。

→ 部活に加入し活動を続ける以上、技術や技能の向上への願いは自然なことであろう。親・周囲からの影響など、活動参加への動機は様々だろうが、スポーツや文化芸術活動に興味・関心をもっている子どもたちのモチベーションの維持を大切に支えたい。

設問2：中学生になったら、部活をやってみたいか（理由・どんな部活動をやってみたいか）

問3：中学生になったら、部活動をやってみたいですか？



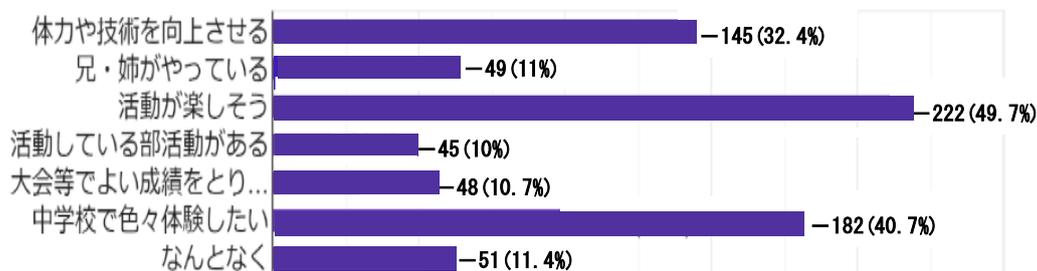
中学生になったら、部活動をやってみたいですかについての回答では、やってみたい68.1% やらない8%、わからないが23.9%でした。

→ 周囲からの影響もあってか中学進学後「部活動をやってみたい」と考える児童は7割ほどにも上る。部活動への参加が、子どもたちの中学校生活における大きな期待を担っている。

問4：やってみたい理由は何ですか。（2つまで選べます）

【選択肢】

- 体力や技術を向上させる
- 兄・姉がやっている
- 活動が楽しそう
- 活動している部活動がある
- 大会等でよい成績をとりたい
- 中学校で色々体験したい
- なんとなく



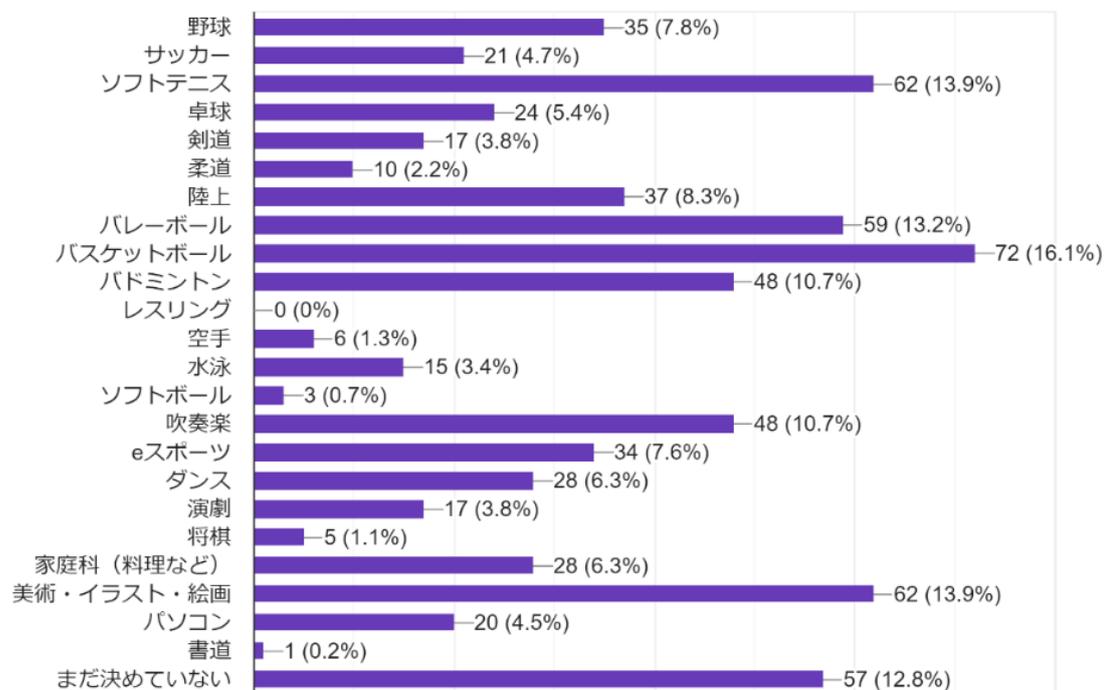
やってみたい理由についての回答では、多い順に活動が楽しそう 49.7%、中学校で色々体験したい 40.7%、体力や技術を向上させる 32.4%、なんとなく 11.4%、兄・姉がやっている 11%、大会等でよい成績をとりたい 10.7%、活動している部活動がある 10%でした。また、自由記述では、運動が好きだから、今までやってきた習い事だから、先輩に誘われた、思い出を残したい、将来の夢に関係しているから、親にやれと言われてる、青春をエンジョイしたい、などの様々な意見がありました。

→「活動が楽しそう」「色々体験したい」など、部活動に期待を寄せる子どもたちの声が多くある。

「体力や技術の向上」の願いとも合わせ、部活動への加入によって、中学校生活を充実したものにしていきたいと考える子どもが多数であることが明らかになった。

問5：どんな部活動をやってみたいですか

(※下段の中の種目には、現在中学校で活動のない部活動も入っています)



やってみたい部活動についての回答では、多い順にバスケットボール 16.1%、ソフトテニス 13.9%、美術・イラスト・絵画 13.9%、バレーボール 13.2%、バドミントン 10.7%、吹奏楽 10.7%などスポーツに限らず、文化芸術系の活動に興味がありやってみたいとの回答も多い状況でした。また、まだ決めていないとの回答も 12.8%ありました。

→ 子どもが参加を希望する種目はスポーツ、文化芸術とも多岐にわたる。すでに活動に参加し楽しさや喜びを経験済みというものもあれば、自主的・自発的に活動を始めようとの期待も含まれているだろう。

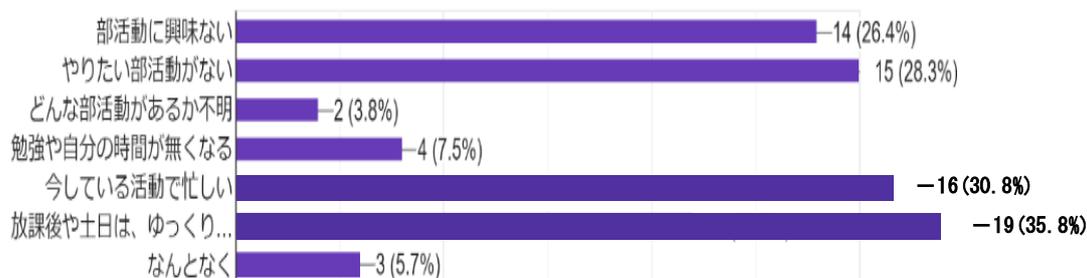
設問3：部活動をやらない理由について

→ 中学生になったら、部活動をやってみたいですかの質問にやらないと回答した回答者

問6：やらない理由は何ですか（2つまで選べます）

【選択肢】

部活動に興味ない
やりたい部活動がない
どんな部活動があるか不明
勉強や自分の時間がなくなりそう
今している活動があり、忙しい
放課後や土日は、ゆっくりしたい
なんとなく



やらない理由についての回答では多い順に、放課後や土日は、ゆっくりしたい 35.8%、今している活動で忙しい 30.8%、やりたい部活動がない 28.3%、部活動に興味ない 26.4%、勉強や自分の時間が無くなる 7.5%、なんとなく 5.7%、どんな部活動があるか不明 3.8%でした。また、自由記述では、どんな部活動があるかわからない、クラブスポーツに入っているから、部活動以外のスポーツに頑張っているから、クラブチームに入る予定がある、硬式野球をやりたい、などの意見がありました。

→ 子どもたちのライフスタイルも多様化しており、主体的に自らの生活をデザインしていきたいという願いも尊重されるべきだろう。

一方で、新たな各種の文化活動との出会いにも注目させていくため、多くの魅力的な選択肢が用意されていく必要がある。

設問4：地域のクラブや教室への参加について

問7：地域にやってみみたい競技や活動ができるクラブや教室があれば参加してみたいと思いますか



地域にやってみみたい競技や活動ができるクラブや教室があれば参加してみたいと思いますかについての回答では、現在、クラブや教室などに参加している19.6%、参加してみたい23%、参加しない14%、わからない35%、学校になければしない8.4%でした。

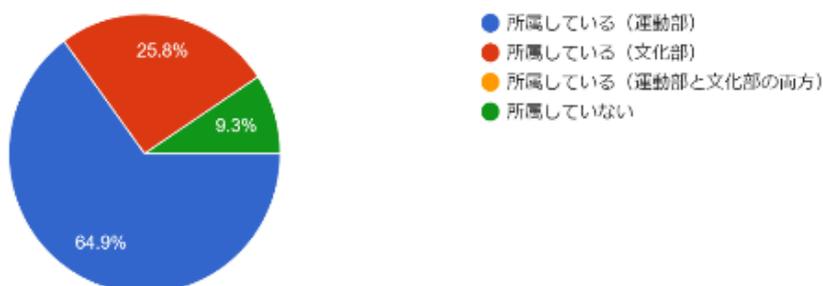
→ 既存のスポーツや文化芸術活動に触れる経験をもっていないとすれば、一層内容もわからない地域クラブの活動への参加は判断に迷うことだろう。子どもが魅力を感じる内容、充実した指導・運営体制等、環境を整えた上で参加を促していきたい。

部活動アンケート調査の結果と考察（中学校1・2年生の保護者）

対象者 620 名中、151 名から回答がありました。回答率は全体で 24.4%でした。

設問1：お子さんの学校部活動の所属状況等について

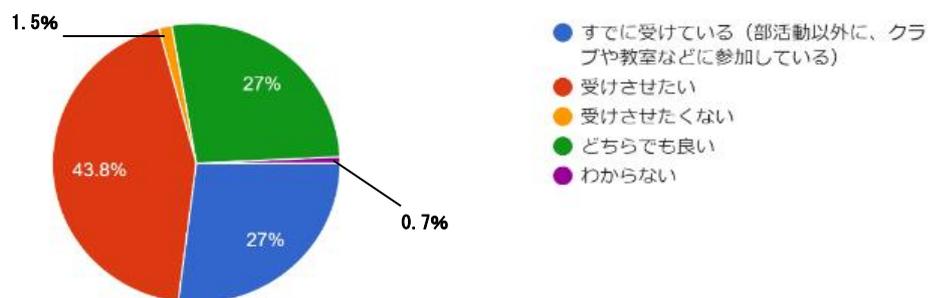
問1：お子さんは、学校で部活動に所属していますか



お子さんは、学校で部活動に所属していますかについての回答では、運動部に所属している 64.9%、文化部に所属している 25.8%、部活動に所属していない 9.3%でした。回答者のうち 90%以上のお子さんが部活動に所属している状況です。

→ 9割を超える多くの子どもたちが部活動に所属し、特に運動部に参加する子どもが多いことがわかる。

問2：部活動の指導について、顧問以外の専門的指導ができる人から実技指導を受けさせたいと思いますか



部活動の指導について、顧問以外の専門的指導ができる人から実技指導を受けさせたいと思いますかについての回答では、受けさせたい 43.8%、すでに受けている 27%、どちらでもよい 27%、受けさせたくない 1.5%、わからない 0.7%でした。

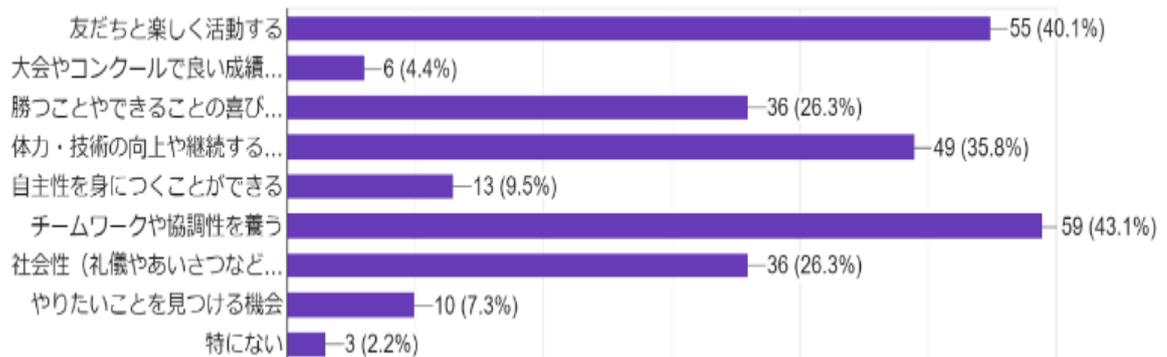
→ 「すでに受けている」という回答を含め、7割の保護者がより専門的な指導を受けさせたいとしている。各々の競技・活動に精通した指導者が求められているといえるだろう。

設問 2 : 保護者の部活動に対する期待や心配・不安について

問 3 : 部活動に対して、期待することは何ですか（2 つまで選択可）

【選択肢】

- 友達と楽しく活動する
- 大会やコンクールで良い成績を上げる
- 勝つことやできることの喜びを経験する
- 体力・技術の向上や継続するなどを養う
- 自主性を身につけることができる
- チームワークや協調性を養う
- 社会性（礼儀やあいさつなど）を身につける
- やりたいことを見つける機会
- 特にない



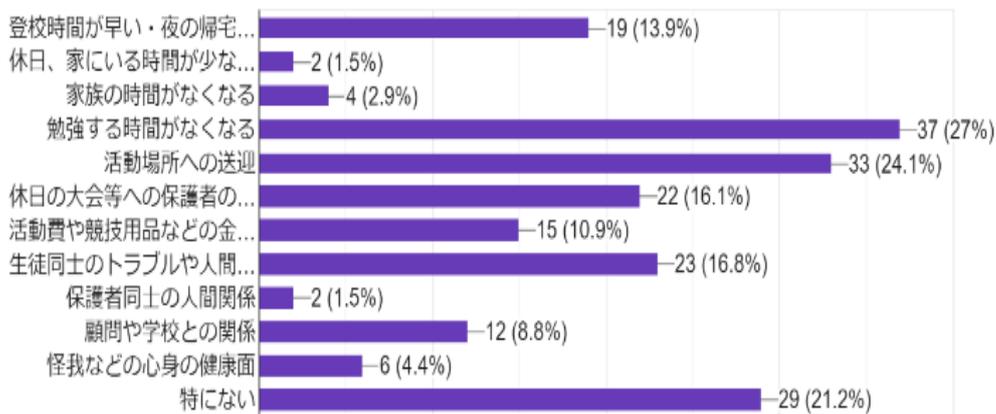
部活動に対して、期待することについての回答では、チームワークや協調性を養う 43.1%、友達と楽しく活動する 40.1%、体力・技術の向上や継続するなどを養う 35.8%、勝つことやできることの喜びを経験する 26.3%、自主性を身につけることができる 9.5%、やりたいことを見つける機会 7.3%、大会やコンクールで良い成績を上げる 4.4%、特にないは 2.2%でした。また、自由記述として、学問と部活を両立しながら時間を上手に使って欲しい、強制参加とならないようにして欲しいなどの意見がありました。

→ 部活動に参加することで、コミュニケーション力の向上や良好な交友関係の維持につながることを期待する声が多く上がった。また、体力や技術の向上はもちろん、社会性の獲得や課題達成の喜びを味わうことを願う保護者も少なくない。教科学習を超えたところでの、学校における集団学習に期待する様子が見え始める。

問4：部活動に対して、心配や不安に思うことは何ですか（2つまで選択可）

【選択肢】

- 登校時間が早い・夜の帰宅が遅くなる
- 休日、家にいる時間が少なくなる
- 家族の時間がなくなる
- 勉強する時間がなくなる
- 活動場所への送迎
- 休日の大会等への保護者の付き添いや応援
- 活動費や競技用品などの金銭的負担
- 生徒同士のトラブルや人間関係
- 保護者同士の人間関係
- 顧問や学校との関係
- 怪我などの心身への健康面
- 特にない

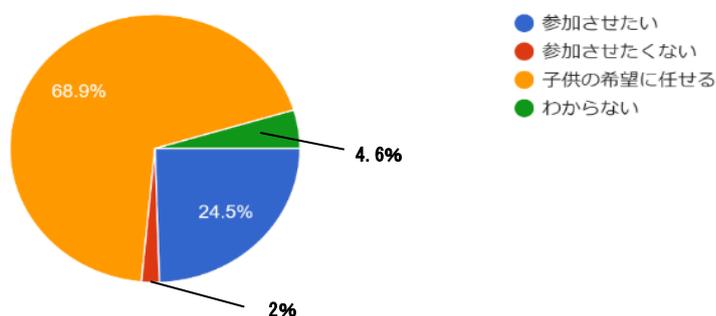


部活動に対して、心配や不安に思うことについての回答では、勉強する時間がなくなる 27%、活動場所への送迎 24.1%、生徒同士のトラブルや人間関係 16.8%、休日の大会等への保護者の付き添いや応援 16.1%、登校時間が早い・夜の帰宅が遅くなる 13.9%、活動費や競技用品などの金銭的負担 10.9%、顧問や学校との関係 8.8%、家族の時間がなくなる 2.9%、休日、家にいる時間が少なくなる 1.5%、保護者同士の人間関係 1.5%でした。特にないと回答は 21.1%でした。また、自由記述では人数不足による存続の心配、専門外の先生が顧問になる、家庭の予定や都合より部活動優先になる、勝つこと優先の選手選びになる、などの意見がありました

→ 学業との両立を心配する声に交じって、大会への送迎や活動費・競技用品等による保護者負担を心配する声があった。各種の文化芸術活動に対する“体験格差”が広がらないように、家庭の経済的負担を軽減するための何らかの工夫も検討が必要になる。

設問3：地域移行した場合の部活動への参加や地域移行への期待や心配・不安について

問5：中学校の部活動が平日のみとなった場合、休日に学校部活動以外のスポーツ・文化芸術活動等の地域クラブや教室に参加させたいと思いますか



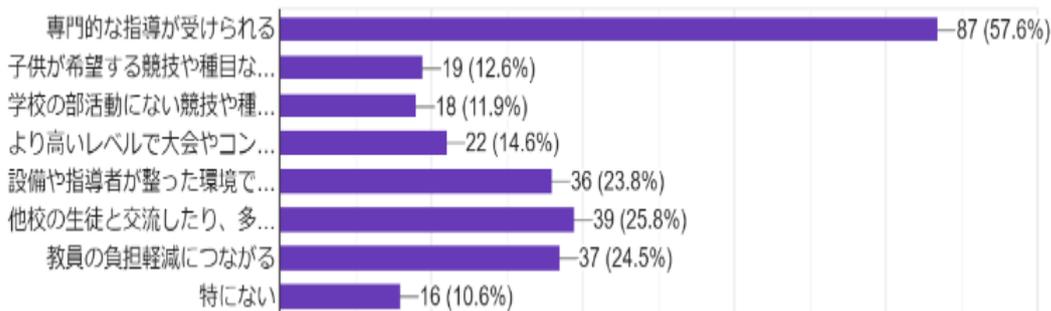
中学校の部活動が平日のみとなった場合、休日に学校部活動以外のスポーツ・文化芸術活動等の地域クラブや教室に参加させたいと思いますかの回答では、子どもの希望に任せる68.9%、参加させたい24.5%と高い状況であり、子供の希望を優先させたい思いが高いと思われます。また、わからないが4.6%、参加させたくないは2%でした。

→ 子どもの自由意思を尊重する声が圧倒的であった。まずは多様なスポーツ・文化芸術活動の選択肢を用意した上で、子どもたちが“選ぶ”ことができる環境を整えていきたいものである。それによりこうした文化活動の楽しさ・おもしろさや魅力に触れ、味わおうとする力をつけていくことも大切なことといえよう。

問6：中学校の部活動が地域に移行された場合、期待することを教えてください（2つまで選択可）

【選択肢】

- 専門的な指導が受けられる
- 子供が希望する競技や種目などの活動が選択できる
- 学校の部活動にない競技や種目に取り組める
- より高いレベルで大会やコンクールに参加できる
- 設備や指導者が整った環境で練習できる
- 他校の生徒と交流したり、多世代との交流ができる
- 教員の負担軽減につながる



中学校の部活動が地域に移行された場合、期待することについての回答では、専門的指導が受けられるが57.6%と高く、他校の生徒と交流したり、多世代との交流ができる25.8%、教員の負担軽減につながる24.5%、設備や指導者が整った環境で練習できる23.8%、より高いレベルで大会やコンクールに参加できる14.6%、子供が希望する競技や種目などの活動が選択できる12.6%、学校の部活動にない競技や種目に取り組める11.9%でした。また、特にないと回答は10.6%でした。自由記述ではしっかり活動してもらえそう。中学校生活と部活動の区別がはっきりする。などの意見がありました。

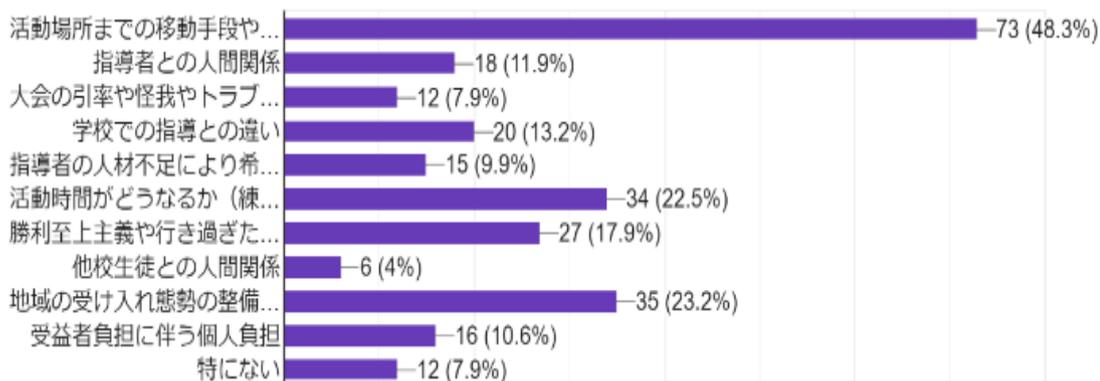
→ ここでの“専門的な指導”が“技術指導”を指し、その結果としての“高いレベルでの大会やコンクールへの参加”を期待しているとするれば、必ずしも部活動の本来のねらいとは重ならないが、実際には高いレベルでのパフォーマンスの発揮を期待する声が多くあった。指導者には、子どもや保護者の願いに寄り添い、個々の能力の伸長のための確かな指導力が求められている。

また、子どもの希望に沿った多種多様な活動を用意するためには種々の工夫が必要になるが、地域移行が進むことによって、そうした環境が整っていくことも考えられるだろう。

問7：中学校の部活動が地域に移行された場合、不安や心配に思うことを教えてください（2つまで選択可）

【選択肢】

- 活動場所までの移動手段や送迎
- 指導者との人間関係
- 大会の引率や怪我やトラブル等への対応
- 学校での指導との違い
- 指導者の人材不足により希望する種目の活動ができない
- 活動時間がどうなるか（練習が長い・夜間や土日の活動状況など）
- 勝利至上主義や行き過ぎた指導
- 他校生徒との人間関係
- 地域の受け入れ態勢の整備（練習環境や指導者確保）
- 受益者負担に伴う個人負担
- 特にない



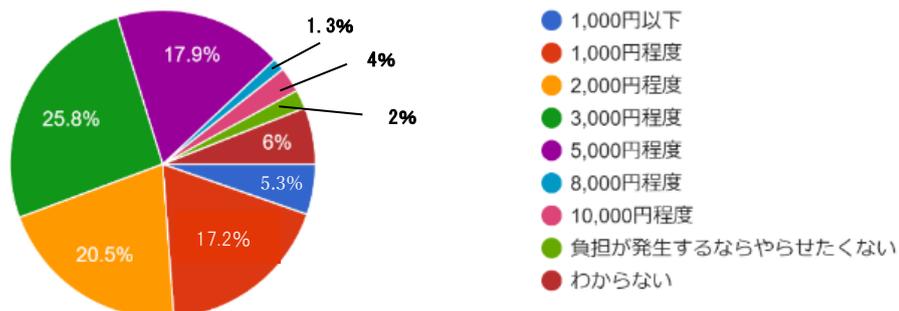
中学校の部活動が地域に移行された場合、不安や心配に思うことについての回答では、活動場所までの移動手段や送迎 48.3%、地域の受け入れ態勢の整備（練習環境や指導者確保）23.2%、活動時間がどうなるか（練習が長い・夜間や土日の活動状況など）22.5%、勝利至上主義や行き過ぎた指導 17.9%、学校での指導との違い 13.2%、指導者との人間関係 11.9%、受益者負担に伴う個人負担 10.6%、指導者の人材不足により希望する種目の活動ができない 9.9%、大会の引率や怪我やトラブル等への対応 7.9%、他校生徒との人間関係 4%でした。また、特にないとの回答は 7.9%でした。

→ ここでも“送迎”に関しての心配が多く上がった。保護者の支援のみに頼らなくても移動が可能で、活動が継続できる仕組みを整えていく必要があるだろう。

また、地域クラブの運営全般に関わる心配や不安に対しては、学校を含めた関係者間で十分に検討し、理解を求めていくことが必要になる。

設問 4：地域移行した場合の地域クラブ等への月謝について

問 8：休日に学校部活動以外のスポーツや文化芸術等の活動を地域クラブが実施する際、参加する月謝等が保護者負担になる場合には、1 か月どの程度が妥当と思われますか



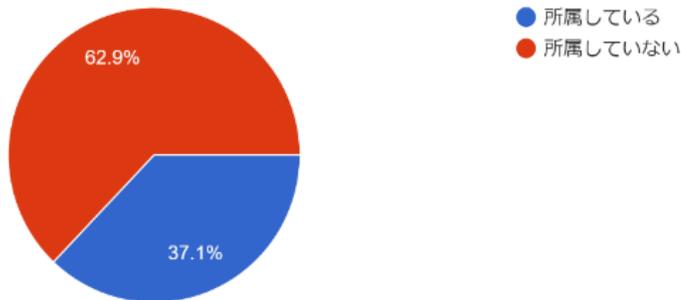
参加する月謝等が保護者負担になる場合の負担金額については、多い順に 3,000 円程度 25.8%、2,000 円程度 20.5%、1,000 円程度 17.2%、5,000 円程度 17.9%、わからない 6%、1,000 円以下 5.3%、10,000 円程度 4%、負担が発生するならやらせたくない 2%、8,000 円程度 1.3%でした。

→ “月謝”に何が含まれると考えるかによって個人の負担額は変わってくるが、競技や活動に必要な個人持ちの用具やユニフォーム、大会・コンクールへの参加費等が加われば、保護者負担はさらに増すことになる。

中央値は 2～3,000 円ほどになるが、競技・活動ごとにトータルでみていく必要があるだろう。

設問5：学校以外での活動について

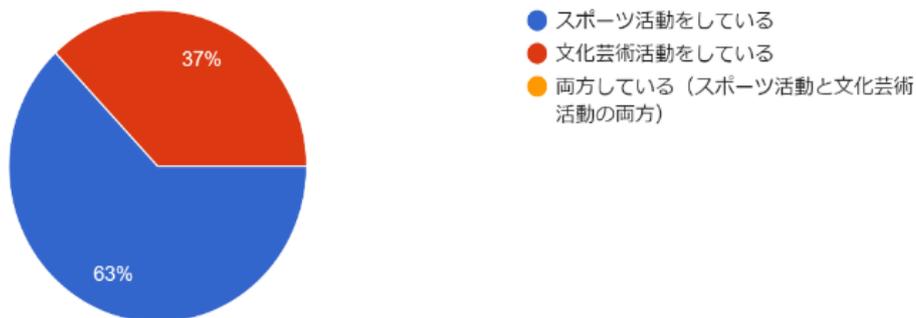
問9：お父さんは、学校以外にクラブや教室などに所属して活動していますか（学習塾は除く）



学校以外にクラブや教室などに所属して活動していますかの回答では、学校以外にクラブや教室などに所属して活動している37.1%、所属していない62.9%でした。

→ 回答者の6割を超える家庭の子どもたちにとって、任意のスポーツや文化芸術活動に親しむ機会は、現在のところ学校に限られているとみることができる。そうした意味でも、部活動は子どもたちにとって重要な意義をもつものであると考えられる。

問10：お父さんが所属している活動は何ですか（学習塾は除く）



学校以外でクラブや教室などに所属しているとの回答者のうち、スポーツ活動をしている63%、文化芸術活動をしている37%でした。

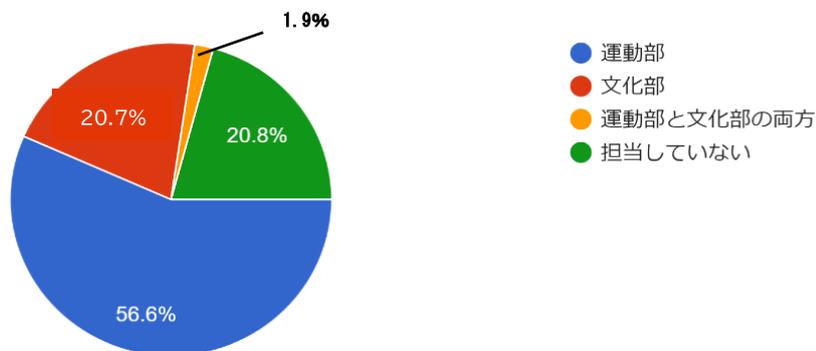
→ 学校外でもスポーツ活動に参加させている保護者の数が文化芸術活動への参加を上回っており、中学生期の子どもたちにとってスポーツ人気の高いことがうかがえる。

部活動アンケート調査の結果と考察（中学校 教師）

対象者 62 名中、53 名から回答がありました。回答率は全体で 85.5%でした。

設問 1：部活動の担当状況について

問 1：担当（顧問）している部活動を教えてください

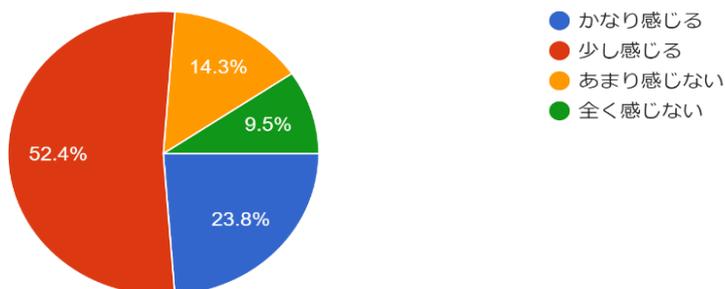


担当（顧問）している部活動を教えてくださいについての回答では、運動部の顧問をしている 56.6%、文化部の顧問をしている 20.7%、運動部と文化部両方の顧問をしている 1.9%、部活動の担当（顧問）をしていないは 20.8%でした。

→ 8割の教師が学校での時間のやり繰りをしながら、課外部活動の指導に当たっている。

設問2：現在担当する部活動のやりがい・負担等に思うことについて

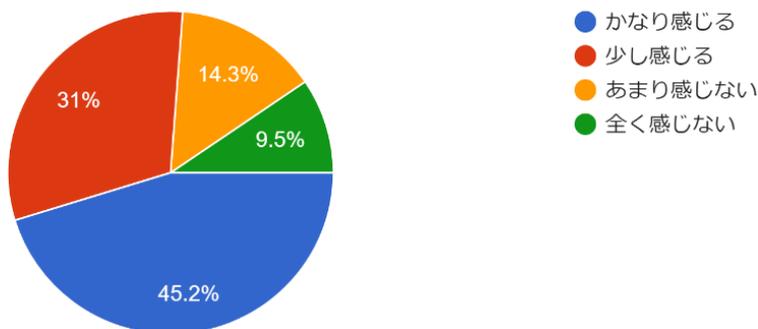
問2：現在担当する部活動にやりがいを感じますか



現在担当する部活動にやりがいを感じますかについての回答では、やりがいをかなり感じる23.8%、少し感じる52.4%、あまり感じない14.3%、全く感じない9.5%でした。

→ 「少し感じる」を含めると、教育課程外の部活動の指導にもやりがいを感じている教師の割合は7割を超えている。

問3：現在担当する部活動に負担を感じていますか



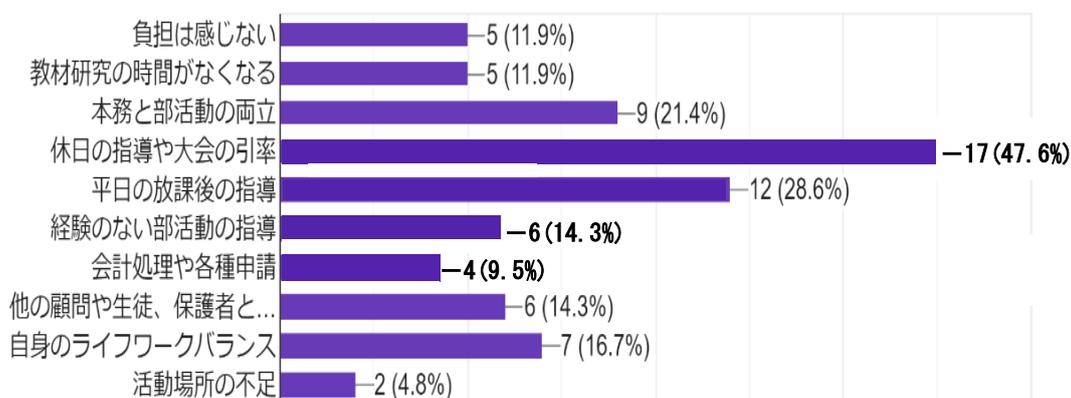
現在担当する部活動に負担を感じていますかについての回答では、担当する部活動に負担をかなり感じる45.2%、少し感じる31%、あまり感じない14.3%、全く感じないが9.5%でした。回答者のうち76.2%が負担を感じていると回答しました。

→ 部活指導については7割強の教師が負担を感じており、「感じない」と答えた教師は2割程度に止まっている。前問の回答とあわせ考えると、教師は部活動の指導に「やりがいを感じつつ」も、同時に「負担感を持つ」といった相反する心理状態にあるといえる。

問4：あなたが部活動の顧問をしている中で、どのようなことに負担を感じますか

【選択肢】

- 負担は感じない
- 教材研究の時間がなくなる
- 本務と部活動の両立
- 休日の指導や大会の引率
- 平日の放課後の指導
- 経験のない部活動の指導
- 会計処理や各種申請
- 他の顧問や生徒、保護者との人間関係
- 自身のライフワークバランス
- 活動場所の不足



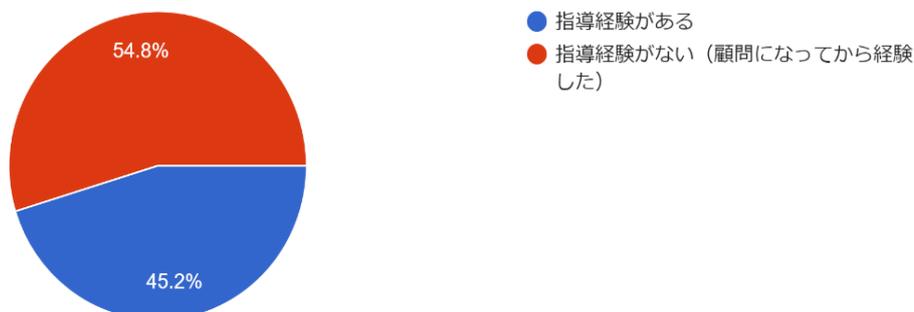
部活動の顧問をしている中で、どのようなことに負担を感じますかについての回答では、休日の指導や大会の引率が一番多く 47.6%、平日の放課後の指導 28.6%、本務と部活動の両立 21.4%、自身のライフワークバランス 16.7%、他の顧問や生徒、保護者との人間関係 14.3%、経験のない部活動の指導 14.3%、教材研究の時間がなくなる 11.9%、会計処理や各種申請 9.5%、活動場所の不足 4.8%でした。

また、負担は感じないは 11.9%でした。

→ 休日の自由に過ごせる時間を都合したり、勤務時間中の本務に関わる時間をやり繰りしたりするなどしながら、献身的に部活動の指導に当たっている教師の多忙な現実が推察される。

設問3：現在担当する部活動の指導経験について

問5：現在あなたが担当（顧問）している種目は、指導経験のある種目ですか



現在あなたが担当（顧問）している種目は、指導経験のある種目ですかについての回答では、指導経験がある45.2%、指導経験がない54.8%と、半数以上の顧問が未経験の指導を行わざるを得ない状況です。
→ これまでに「指導経験がない」という教師が顧問を担当する割合が半数を超えている。校外から専門の指導員を配置されている場合を除けば、多くの教師が生徒の要望に応えるよう様々な工夫しながら研鑽に努め、部活動を運営している現実が推察される。

設問4：部活動が地域移行された場合の指導へのかかわりについて

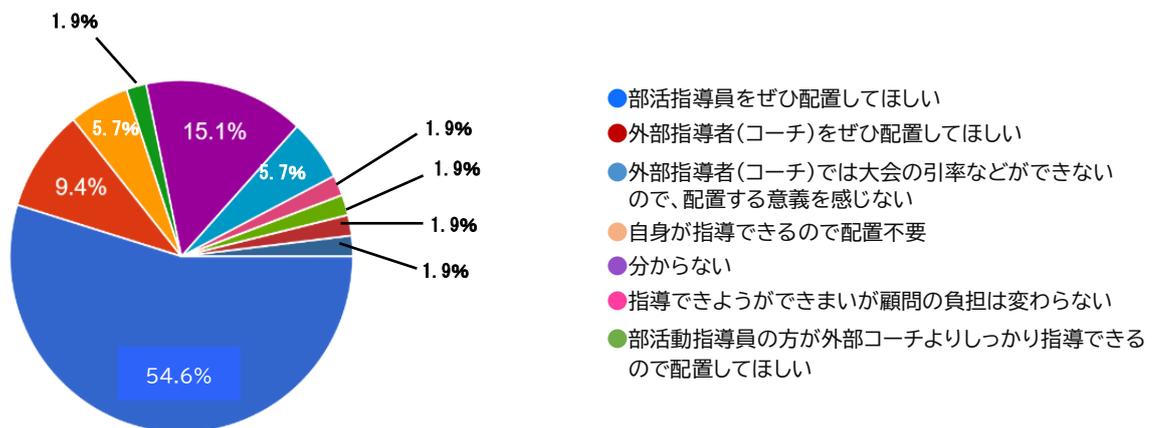
問6：「休日の部活動」が地域移行された場合、あなたは指導へのかかわりについてどのようにお考えですか



「休日部活動」が地域移行された場合の指導へのかかわりについての回答では、兼職兼業許可を得て自身が指導に関わりたい15.1%、兼職兼業を行うつもりはない60.4%、分からない・未定である24.5%でした。
→ 部活動に替わる新たな地域クラブへの関与については、「積極的に関わりたい」という教師が2割に満たない状況である。背景には価値観の多様化に伴い、仕事も含めたバランスのとれた生活をデザインしようという新しいライフスタイルの浸透があるものと考えられる。

設問5：部活動指導員や外部指導者（コーチ）の配置及び解決すべき最も大きな課題について

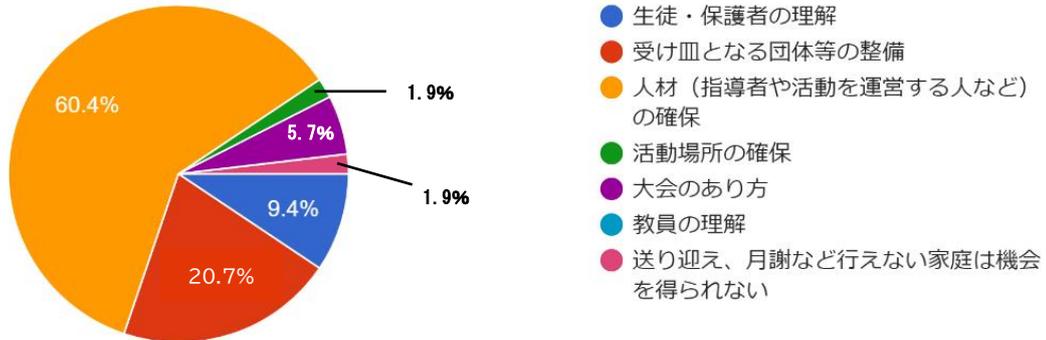
問7：部活動指導員や外部指導者（コーチ）の配置について、どのように感じますか



部活動指導員や外部指導者（コーチ）の配置についての回答では、部活動指導員をぜひ配置してほしい 54.6%、外部指導者をぜひ配置してほしい 9.4%、外部指導者では大会の引率などができないので、配置する意義を感じない 5.7%、自身が指導できるので配置不要 5.7%、分からない 15.1%でした。このほか、指導できようができてまいが顧問の負担は変わらない。部活動指導員の方が外部コーチよりしっかり指導できるので配置をしてほしい。など複数の自由記述がありました。

→ “学校外からの指導者の配置は不要”という教師はごくわずかである。外部指導者は大会への引率指導が認められていないという制度との関係からか、“部活指導員”の配置を求める声が多い。

問8：「休日の部活動の地域移行」に向けて、解決すべき最も大きな課題は何だと考えますか



「休日の部活動の地域移行」に向けて、解決すべき最も大きな課題についての回答では、人材（指導者や活動を運営する人など）の確保が最も多く60.4%、受け皿となる団体等の整備20.7%、生徒・保護者の理解9.4%、大会のあり方5.7%、活動場所の確保1.9%、送り迎え、月謝など行えない家庭は機会を得られない1.9%でした。

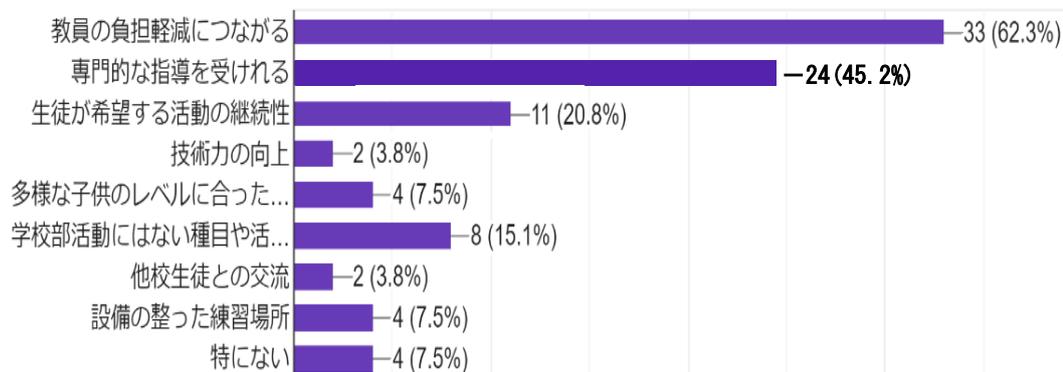
→ “地域移行”のために多く上がった“人材確保”の内容については困難な課題も少なくない。とりわけ“受け皿をどうしていくか”は大きな課題であるが、国や県のガイドラインにもある“地域の子どもたちは、学校を含めた地域で育てる”という認識を社会全体が共有しつつ、様々な団体・個人が協力していくことが不可欠である。

設問6：部活動を地域が担うことについて、期待すること・不安や心配に思うことについて

問9：部活動を地域が担うことについて、期待することを教えてください（2つまで選択可）

【選択肢】

- 教員の負担軽減につながる
- 専門的な指導が受けられる
- 生徒が希望する活動の継続性
- 技術力の向上
- 多様な子供のレベルに合った活動の充実
- 学校部活動にはない種目や活動の実施
- 他校生徒との交流
- 設備の整った練習場所
- 特にない



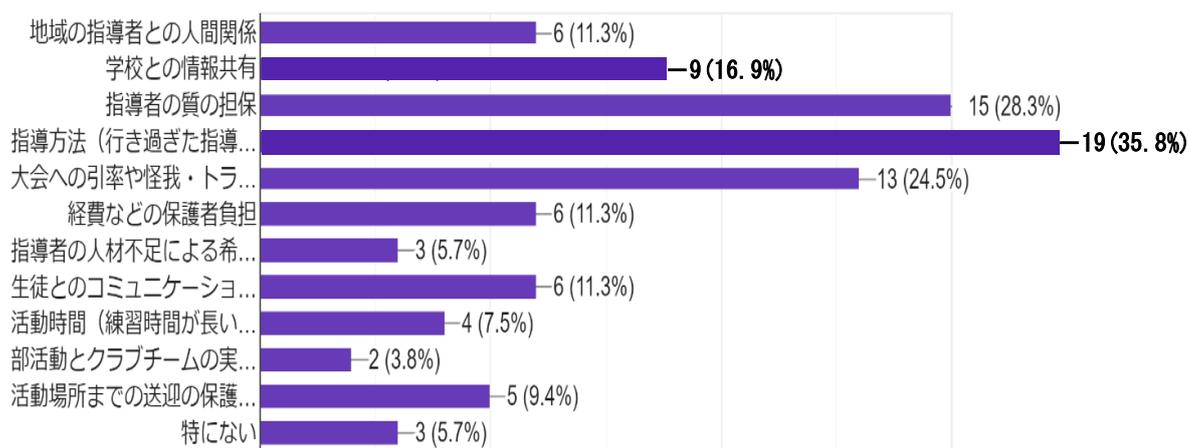
部活動を地域が担うことについて期待することの回答では、多い順に教員の負担軽減につながる 62.3%、専門的な指導が受けられる 45.2%、生徒が希望する活動の継続性 20.8%、学校部活動にはない種目や活動 15.1%、多様な子供のレベルに合った活動の充実 7.5%、設備の整った練習場所 7.5%、技術の向上・他校生徒との交流 3.8%でした。また、特にないは 7.5%でした。

→ 部活動改革の背景にある、子どもが減少する中でも持続可能なスポーツや文化芸術活動に親しむことのできる環境の構築と教師の働き方改革に対する理解・進展に、社会総がかりでの対応が求められている。

問10：部活動を地域が担うことについて、不安や心配に思うことを教えてください（2つまで選択可）

【選択肢】

- 地域の指導者との人間関係
- 学校との情報共有
- 指導者の質の担保
- 指導方法（行き過ぎた指導など）
- 大会への引率や怪我・トラブルへの対応や補償（生徒指導上の問題も含む）
- 経費などの保護者負担
- 指導者の人材不足による希望種目の有無
- 生徒とのコミュニケーションの減少
- 活動時間（練習時間が長い・夜間練習など）
- 部活動とクラブチームの実力差
- 活動場所までの送迎の保護者負担
- 特にない



部活動を地域が担うことについて、不安や心配に思うことへの回答では、多い順に指導方法（行き過ぎた指導など）35.8%、指導者の質の担保28.3%、大会の引率や怪我・トラブルへの対応や補償（生徒指導上の問題も含む）24.5%、学校との情報共有16.9%、地域の指導者との人間関係11.3%、経費などの保護者負担11.3%、生徒とのコミュニケーションの減少11.3%、活動場所までの送迎の保護者負担9.4%、活動時間（練習時間が長い・夜間練習など）7.5%、指導者の人材不足による希望種目の有無5.7%、部活動とクラブチームの実力差3.8%でした。また、特にないは5.7%でした。

→ 基本的には、地域社会全体としての“部活動の地域移行”の趣旨の理解と協力、こうした教師の不安や心配を払拭する環境(受け皿)の整備が急務といえる。“教育の一環”として長らく学校が担ってきた活動を、新しいかたちで地域が引き受けていくための連絡・連携強化が重要である。

Ⅲ 全体のまとめ

部活動アンケートの結果から見えてきたこと

小諸市教育委員会

1 中学校1・2年 生徒のアンケートから

- (1) 8割を超える生徒が部活動に所属し、それぞれの活動のおもしろさを味わったり、目標の達成に向けた取り組みに意義ややりがいを感じているようである。また、異学年を含む仲間とのコミュニケーションにも、多くの生徒が楽しさや喜びを感じているようすがうかがえる。
- (2) 部活動の中で困ることや不安を感じることは「特にない」とする生徒が多く、達成感・満足感を得ながら、全体として満足のいく生活を送っているものと思われる。一方で、顧問や仲間との人間関係の中で心理的負担を抱えていたり、学業との両立に困難を感じるという声も寄せられた。当然のことながら、生徒の立場に寄り添った運営を心がけていくことが重要となる。
- (3) 学校以外の各種クラブ・教室との関係では、6割ほどの生徒が学校部活動のみの参加であり、様々な文化的活動に参画していく機会としても、学校の部活動は重要な意義をもつものであると考えられる。また、学校以外の活動に参加する生徒の主な目的は、“パフォーマンスの向上”にあると思われ、高い技能の獲得に関心が寄せられているようである。
- (4) 地域における「休日の部活動」については、参加するなら「(学校と) 同じものをしてほしい」と考える生徒が7割に上る。その主な理由は、「技術の向上」や「大会・コンクールで良い成績を取りたい」という願いによるものである。地域移行にあたっては、生徒が望む「専門的な指導」による「技術の向上」に応え得る指導者の資質の担保が求められよう。課題は少なくないが、運営体制や環境を整えば、「休日の部活動」にも参加する生徒が増えていくのではないかと考えられる。

2 小学校5・6年 児童のアンケートから

- (1) 小学生が校外においてスポーツや各種の文化芸術活動に参加する割合は6割に上り、様々な文化活動に関わることを楽しむ生活スタイルが定着してきている様子がうかがえる。他方、種々の理由からこうした活動を経験できない児童もあり、いわゆる“体験格差”が広がっていかないような施策について、今後研究・検討されていく必要があるだろう。
- (2) 7割近い児童が中学進学後の部活動を「やってみたい」と楽しみにしている。多くの子どもにとって、中学校生活における部活動は学校生活の充実に直結する一大関心事といえそうである。「楽しそう」「いろいろやってみたい」という活動への意欲が、充実した学校生活に結ばれていくものと考えられる。

- (3) 地域移行後の「休日の部活動」への参加を希望する児童は、すでに何らかの活動に参加する子どもを含めて4割程度に止まる。子どもたちの価値観も多様になってきてはいるが、魅力的な内容や充実した指導体制等の環境を整え、休日の過ごし方の選択肢を広げていきたい。

3 中学校1・2年 生徒保護者のアンケートから

- (1) 部活動に参加させる保護者の多くが望むのは、「チームワークや協調性」「礼儀やあいさつなどの社会性」の育成や「友達と楽しく活動する」ことなどであった。こうしたことから、部活動によってスポーツや文化・芸術、科学等に親しみながら、学校という集団生活の場であればこそ幅広い人間性の育成に期待しているものと考えられる。
- (2) 休日の部活動が地域移行した際の参加については、子どもの選択に委ねるという意見が大半であるが、その際に期待することとして、「専門的な指導が受けられる」ことを6割近い保護者が挙げている。地域移行の実際にあたっては、各々の活動に精通した人材の選定や充実した環境の整備を図るとともに、地域資源を活かした小諸ならではの持続可能なクラブの設置を検討していきたい。

4 中学校教師のアンケートから

- (1) 「少し感じる」を含めると部活動の指導にやりがいを感じる教師は7割を超える。しかし一方で、同じ程度の教師が負担を感じており、「(負担を)感じない」教師は2割程度に止まる。このアンビバレントな心理状態の解消を図り、教員本来の職務である教科指導・生徒指導の効果的・効率的な運営に資することが今般の部活動改革のねらいの一つとされている。
- なお、負担の中身は、「休日の指導や大会の引率」「平日の放課後指導」「本務と部活の両立」などであるが、これらのほか、「指導経験がない」ことに原因があると考えられる“精神的な負担”を感じる教師も一定数みられる。学校改革に対する社会全体の理解と協力が不可欠とされよう。
- (2) 部活動が休日に地域移行された場合、“積極的に関わりたい”という教師は2割に満たない状況である。価値観が多様化し、仕事と暮らしのバランスのとれた日常生活を求めるライフスタイルが浸透してきたことによるものと考えられよう。
- (3) アンケートでは、部活動指導員（学校職員として単独での実技指導のほか、大会の引率も可能）や外部指導者（顧問の指導計画に従って技術指導を行う）の配置についても尋ねたが、顧問と同様に当該部活動を総合的に指導できる人材の配置を求める声が多く聞かれた。
- (4) 休日部活動の地域移行にあたっての課題としては、受け皿の整備（運営団体や指導者の確保等）や家庭の負担増（費用面、送迎等）を心配する声が多く上がった。これまでの学校部活動をそのまま地域にコピーすることではなく、国・県のガイドラインにもある“地域の子どもたちは学校を含めた地域で育てる”という認識を社会全体が共有しつつ、多くの個人・団体が協力して新しい環境の構築を進めることが必要だろう。